

平成30年度 福島区中学生被災地訪問事業 について



津波で孤立する荒浜小学校（H23年3月11日 仙台市）

事業の目的



行方不明者の搜索活動（H23年3月20日 仙台市）

東日本大震災発生当時は、連日、現地の状況が報道されており、我々大阪に住む者もその被害状況や悲惨さを知ること、防災意識の大切さや人と人の絆の重要性を再認識することができた。

しかし、震災後7年が過ぎた今、報道も少なくなっており、当時の東北の状況や、現在の復興状況を知る機会が少なくなってきた。特に現在の中学生は当時5～7歳であり、また、阪神大震災にいたっては生まれる前の震災ということもあり、震災の記憶が薄いといえる。

そこでこの事業を通じて、中学生が被災地の現在の状況を見たり聞いたり体験し、災害時の自らの役割について考えてもらうとともに、その体験を持ち帰り全校生徒や地域に報告することで、中学生全体の防災意識の向上や地域での人と人とのつながりの強化につなげたい。

事業概要

【対象】

- ・ 区内3中学校から生徒代表各3名 合計9名
- ・ 引率者（教員3名、区職員2名） 合計5名

【日程】

7月24日から2泊3日

【場所】

宮城県(石巻市など)

【フィードバック】

- ・ 平成30年11月中旬に参加生徒により地域に対して報告会を開催予定。
（「人権を考える区民のつどい」と合同開催の予定）
- ・ 他の中学生や地域への報告用リーフレットを作成予定



石巻市南浜地区（H30年3月）

これまでの経過

【平成29年度】

- ・ 6月12日

区内3中学校の生徒(21名)と区長とで懇談会を実施。その際に区長から被災地訪問を提案したところ、中学生より「自分たちで事業内容を企画したい」など積極的な意見が出た。

- ・ 10～11月

平成30年度に向けて中学生被災地訪問事業の計画案を区政会議で報告。
事業実施のための予算案作成。

- ・ 12月4日

2回目の中学生との区長懇談会。

宮城県大阪事務所職員による震災被害や復興状況の説明を受け（DVD映像も）、被災地訪問について意見交換。中学生に訪問先の企画案検討を依頼。

- ・ 2月15日

3回目の中学生との区長懇談会。

中学生がそれぞれの企画案をプレゼンテーション。自分たちで投票して案を10件に絞り、訪問先の優先順位を設定。

懇談会のようす



これまでの経過及び今後の予定

【平成29～30年度】

- ・ 3～4月
中学生の企画案をもとにプロポーザル型の事業者公募を実施。
2者の応募があり、委託事業者は(株)近畿日本ツーリスト関西に決定。
(企画案はほぼ訪問行程に反映されている)
- ・ 7月24～26日
被災地訪問実施（2泊3日）
- ・ 11月中旬
参加生徒による報告会を開催予定

訪問先

- 震災遺構 仙台市立荒浜小学校
- 東北大学 災害科学国際研究所で震災学習
- 津波避難タワーなど防災施設
- 石巻市に派遣されている本市職員からの現況説明



津波避難タワー(仙台市宮城野区)



震災遺構 仙台市立荒浜小学校

訪問先

- 復興商店街での語り部講話、インタビュー
（南三陸さんさん商店街）
- 松島湾の自然の防波堤を船で見学しながら、
被災や復興についての説明(ガイド)を聞く
- 民泊での体験学習（南三陸町内）



松島 震災学習クルーズ



南三陸さんさん商店街(語り部講話)

寄付の募集について

今年度については着々と準備を進めているが、区役所を取り巻く状況が年々厳しくなっている中、次年度以降も継続して子どもたちにこの貴重な機会を提供するための財源確保が大きな課題となっているため、このたび寄付の募集を行う。

1 目標金額

300万円

2 寄附金の使途

中学生被災地訪問事業を継続実施するための資金（事業費）として使用。

3 寄附者の特典

◆ 税制上の優遇措置

【個人の場合】

「ふるさと寄附金」制度により税控除の対象になる。

【法人の場合】

寄附金の全額を損金算入できる。

◆ 寄付金額により、「のだふじ」苗木または「フツピィ」ぬいぐるみなど記念品の贈呈

◆ 寄付金額により、報告用リーフレットや区役所ホームページなどに寄附者名を掲出（希望者のみ）

大阪市24区
予算拝見
2018年度7

区内の中学生を東日 託費として160万円 である仙台市の小学校 地でもある「松島」を
本大震災の被災地に派 を計上した。 巡るツアーでは語り部
遣し、得た情報を広く 行程は「体験」が中 端末を活用して被災前
地域防災に還元する 心だ。津波被害の遺構 後の状況を観察。景勝
「訪問事業」を初めて と被害の関係を海上か
企画した。生徒らが視 ら観察する。
察や交流を通じた体験 復興途上にある南三
を、住民対象の報告会 陸町の商店街で、商店
で披露。認識を共有す 主らと交流するほか、
ることで区民の防災意 東北大の災害科学国際
識を高め、地域への波 研究所では、学術的な
及効果を期待してい 視点から自然災害のメ
る。 カニズムや防災の技術
を学ぶ。担当者は「視
野を広げて帰ってきて
ほしい」と話す。
日程は夏休み中の7
月下旬の3日間。区民
向けの報告会は11月こ
ろを予定している。

福島区 中学生被災地訪問事業 地域への波及効果期待



これまでの会合で生徒から上がった意見が行程に反映されている

これまでの会合で生徒から上がった意見が行程に反映されている

(藤木俊治)